



Suigarayama_OoazaEngland (南川優子 Yuko Minamikawa)

2017-01-21

「洪水」19号

[2017年1月1日発行](#)。今回の特集は「日本の音楽の古里」。詩人の佐藤文夫さんとルポライターの山村基毅さんの対談「民謡という古里への旅」を読む。日本の民謡というジャンルは英語で言うフォークソングに該当するのだろうか。明治から昭和初期にかけて、詩人が積極的に民謡の作詞に関わったことをこの対談で知る。また、民謡の言葉が「一人の人間が作ったというよりも大勢によって磨かれた言葉」というくぐりに興味を持つ。

拙詩集『スカート』の書評を詩人の阿部日奈子さんに書いていただいた。「雲遊泥泳」のコーナーではノーベル文学賞とウェールズの詩人[リネット・ロバーツ](#) (Lynette Roberts) について書いた。

詩作品では岬多可子さんの「金属の焔のちいさく色は発つ」の「百合の花粉のような烈しい錆」という行に、河野聡子さんの「とおくから星がふる」の登場人物の描写に惹かれる。

配本されるお店、注文方法については[このページ](#)を参照。

07:05:45 - yuko - 2 comments

2017-01-19

ロンドン

ウェブサイトの「[スナップショット](#)」の「[日常](#)」の欄に、週末ロンドンに行ったときの写真を2枚載せた。

この日はキングス・クロス駅のそばで朝食をとり、テート・モダンでアメリカの芸術家[ロバート・ラウシェンバーグの展覧会](#)を観る。コラージュのような作品が多数あり、パッチワークキルトを利用した [Bed](#) が特に印象に残った。この日は同美術館で無料のガイドツアーにも参加。

夜は[T.S. エリオット賞](#)の朗読会に行く。2016年に出版された詩集が対象で、10人の候補者が朗読する会である。会場となったロイヤル・フェスティバル・ホールは満員で、席数は2500人というから、詩の人気も捨てたものではない。10人の朗読はそれぞれ持ち味があってよかったが、アリス・オズワルド (Alice Oswald) の深い読み方に感動した。受賞者は翌日公表され、カンブリアのカーライル生まれの詩人ジェイコブ・ポーリー ([Jacob Polley](#)) に決まる。

00:20:04 - yuko - 2 comments

2017-01-15

詩素 1号

詩誌『[詩素](#)』の創刊号が昨年11月に発行された。編集委員は吉田義昭さん、野田新五さん、南原充士さん、洪水企画の池田康さん。「単に作品を載せるだけでなく、それを読むという位相も取り込みたい」ということはこの詩誌を設計する段階から考

Navigation

[Previous 月](#)
[Next 月](#)
[Today](#)
[Archives](#)
[Admin Area](#)

Categories

[All](#)
[General](#)

灰皿町の本

●[幻想小説『なめくじキーホルダー』](#) [清水鱗造](#)

●[「週刊読書人」詩時評一九九二-一九九三年](#) [清水鱗造批評集 第二分冊](#)

Search

えていた。」と、編集部による後付けがある。詩評やインタビューなどのセクションを読むと、詩を読むということに重点を置いて模索がなされている様子が伺える。「アンケート」では、執筆者が、同号の詩のなかで好きな詩を選び、それに対して短くコメントしている。詩では、海埜今日子さん「水棲まし、水さらい」、小島きみ子さん「浦町神話」、池田康さん「etude 手紙」が印象に残った。わたしは今回は詩作品ではなく、英詩の押韻についての考察を寄稿した。

02:09:43 - yuko - 2 comments

2017-01-12

gui 109号

12月1日発行。四釜裕子さんのbook bar5に[作品名](#)がある。今回は[山本テオ](#)さんの「それはそうだからといって問題ない」に惹かれる。「蛙の手は開きっぱなしで拳で仇を殴ることもできない」という一行が特に好き。わたしはCDとレコード針についての詩を書いた。

21:28:55 - yuko - No comments

2017-01-08

うろこアンソロジー 2016年版 / Duluxの色名

灰皿町のうろこアンソロジーに「Night Jewels 夜の宝石」という詩を載せていただいた。

[うろこアンソロジー 2016年版](#)

こちらのDIYショップには、[Dulux](#) (デュラックス) というペンキが売られているが、代表的な色にはそれぞれ名前が付けられている。昨年後半から年末にかけて、この色と名前から受けた印象を、一日一色と決めて二、三行の短い文書を書いた。158色ある。あまり深く考えず、直感的に頭に浮かんだことを書いたのだが、そこからもう少し広げて詩になりそうなものを拾い、作品を何篇か書こうと思っている。

それと、今年はブロンテ姉妹が住んでいたハウスを訪問するつもり。おそらく春になるだろう。

左側の色は、Duluxのカタログから切り抜いて貼った。

Login

ログインID:

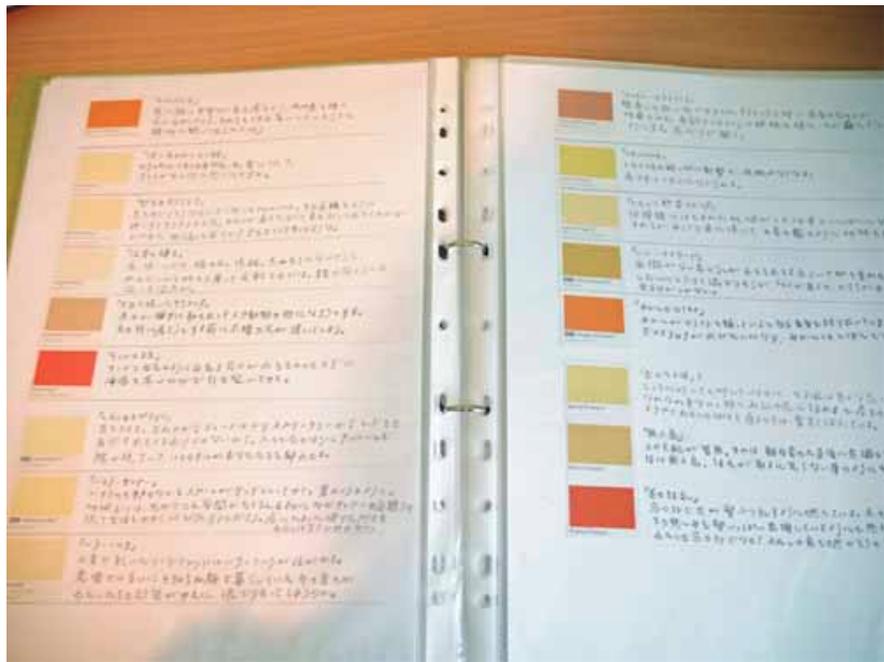
パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

Powered by





20:54:22 - yuko - 2 comments

寝正月

今年も我が家は猫年です。



02:56:31 - yuko - 2 comments